

平成29年度(平成28年度対象)

教育委員会の点検・評価報告書

壬生町教育委員会

目 次

I 教育委員会評価の概要	P 1
II 教育委員会の活動	P 4
III 主な施策ごとの事業概要、評価、方向性	P 6
1. 学び合い、文化が薫るまちづくり（生涯学習課）	
(1)学習環境の充実	
①図書館指定管理運営事業	P 6
②まちかど文庫管理運営事業	P 7
③各種講座等開催事業	P 7
④社会教育施設改修等事業	P 9
(2)文化芸術の振興	
①音楽によるまちづくり推進事業	P 10
②文化祭等の芸術文化推進事業	P 10
2. 誇れる歴史と伝統を受け継ぐまちづくり（生涯学習課）	
(1)文化遺産の保護・活用	
①壬生古墳発掘調査及び保存活用計画書策定事業	P 12
②発掘調査参加大学との連携事業	P 12
③みぶ古墳群解説ボランティア育成事業	P 13
④文化財保存・活用事業	P 13
(2)地域伝統・歴史の再興・継承	
①保存会伝承に伴う補助事業	P 14
②無形民俗文化財公開事業	P 15
③無形民俗文化財連絡協議会設置事業	P 15
(3)地域の歴史の再発見・発信	
①企画展開催事業	P 16
3. 未来を担う子どもたちが健やかに育つまちづくり（学校教育課）	
(1)教育内容の充実	
①学力向上支援事業	P 17
②情報教育推進事業	P 18
③社会体験活動推進事業	P 18
④夢と志のある人づくり推進事業	P 19
(2)教育環境の充実	
①学校施設改修事業	P 21
②学校給食及び食育充実事業	P 21

③学校給食委託事業	P 22
4. 明るく元気な生涯スポーツのまちづくり（スポーツ振興課）	
(1)生涯スポーツの充実	
①総合型地域スポーツクラブ支援事業	P 24
②運動場管理事業	P 25
③ふれあいプール管理事業	P 25
(2)多様なスポーツの振興	
①ゆうがおマラソン開催事業	P 26
②壬生町駅伝チーム育成支援事業	P 27
③スポーツ振興助成事業	P 28
5. 家庭と地域の絆を育むまちづくり（生涯学習課）	
(1)家庭教育の推進	
①子育て・親育ち講座開催事業	P 29
(2)青少年教育の推進	
①青少年活動推進事業	P 30
(3)地域と連携した教育の推進	
①学校地域支援ボランティア推進事業	P 30
6. 国際性を高め交流活動が盛んなまちづくり（学校教育課）	
(1)国際理解の促進	
①外国語指導助手配置事業	P 32
(2)国際交流活動の推進	
①中学生国際交流推進事業	P 33

I 教育委員会評価の概要

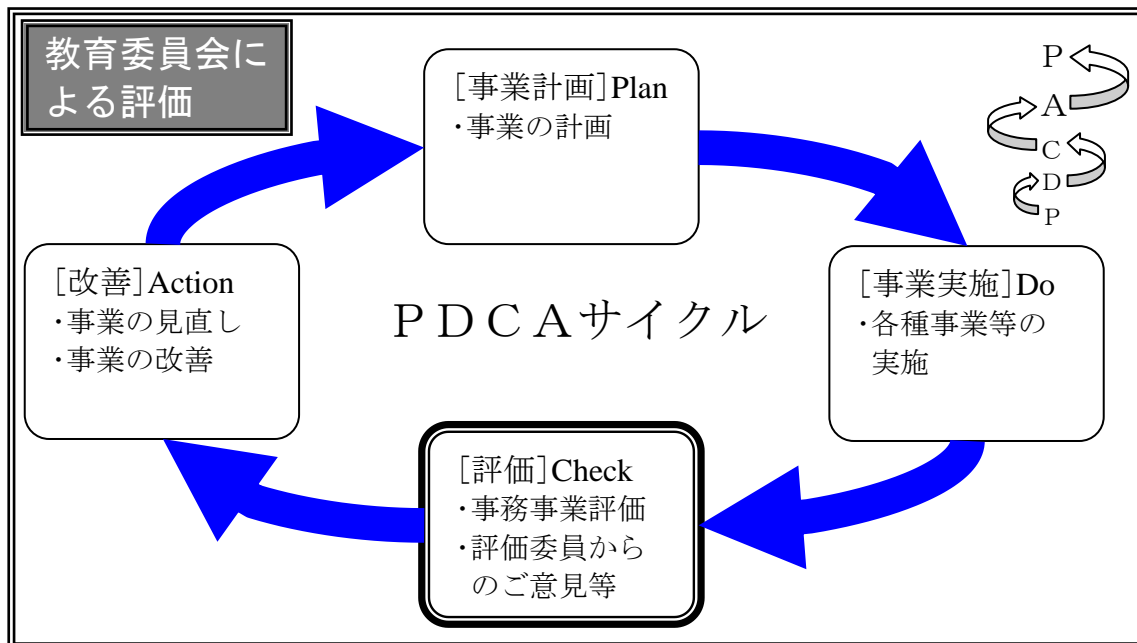
1 評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民へ公表するため、壬生町教育委員会が実施する教育に関する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を実施します。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律 抜粋
(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)
第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

○評価のしくみ

教育委員会で行った自己評価と今後の対応方向を明示して、外部の方のご意見をいただきます。



2 評価の対象

平成28年度から平成37年度の町政運営の基本的方向を示した壬生町第6次総合振興計画～子育て・健康・壬力がキラリ 幸せ実感 住みよい“壬生町”～に基づき、6施策、46事業に区分けし、必要性・妥当性・効率性・有効性等の観点から、平成28年度に執行した事務の管理及び執行のうち、重点事業について評価を行いました。施策の名称等は次のとおりです。

施策の名称等

基本姿勢

みんなで学び・楽しみ 心が触れ合うまち

基本施策	施策の展開	主な事業	重点事業
1. 学び合い、文化が薫るまちづくり ■生涯学習課	(1)学習環境の充実	○図書館指定管理運営事業	◎
		○子ども読書活動推進事業	
		○まちかど文庫管理運営事業	◎
		○各種講座等開催事業	◎
		○社会教育施設改修等事業	◎
	(2)文化芸術の振興	○音楽によるまちづくり推進事業	◎
		○文化祭等の芸術文化推進事業	◎
2. 誇れる歴史と伝統を受け継ぐまちづくり ■生涯学習課	(1)文化遺産の保護・活用	○壬生古墳発掘調査及び保存活用計画書策定事業	◎
		○発掘調査参加大学との連携事業	◎
		○みぶ古墳群解説ボランティア育成事業	◎
		○文化財保存・活用事業	◎
	(2)地域伝統・歴史の再興・継承	○保存会伝承に伴う補助事業	◎
		○無形民俗文化財公開事業	◎
		○無形民俗文化財連絡協議会設置事業	◎
	(3)地域の歴史の再発見・発信	○企画展開催事業	◎
		○郷土の偉人顕彰事業	
○壬生論語古義塾育成事業			
3. 未来を担う子どもたちが健やかに育つまちづくり ■学校教育課	(1)教育内容の充実	○学力向上支援事業	◎
		○英語力育成事業	
		○教師力向上支援事業	
		○情報教育推進事業	◎
		○社会体験活動推進事業	◎

		○子どもの体力向上支援事業	
		○夢と志のある人づくり推進事業	◎
	(2)教育環境の充実	○学校施設改修事業	◎
		○学校教育ICT化推進事業	
		○学校給食及び食育充実事業	◎
		○学校給食委託事業	◎
		○学校規模適正化検討事業	
4. 明るく元気な生涯スポーツのまちづくり ■スポーツ振興課	(1)生涯スポーツの充実	○総合型地域スポーツクラブ支援事業	◎
		○運動場管理事業	◎
		○ふれあいプール管理事業	◎
	(2)多様なスポーツの振興	○ゆうがおマラソン開催事業	◎
		○壬生町駅伝チーム育成支援事業	◎
		○スポーツ振興助成事業	◎
5. 家庭と地域の絆を育むまちづくり ■生涯学習課	(1)家庭教育の推進	○家庭教育推進事業	
		○子育て・親育ち講座開催事業	◎
		○「家庭の日」の啓発事業	
	(2)青少年教育の推進	○青少年活動推進事業	◎
		○青少年健全育成事業	
	(3)地域と連携した教育の推進	○学校地域支援ボランティア推進事業	◎
		○中学生及び青少年地域参画推進事業	
○郷土愛醸成推進事業			
6. 国際性を高め交流活動が盛んなまちづくり ■学校教育課	(1)国際理解の促進	○外国語指導助手配置事業	◎
		(2)国際交流活動の推進	○中学生国際交流推進事業
		○壬生町国際交流協会活動支援事業	

Ⅱ 教育委員会の活動

壬生町教育委員

職 名	氏 名	任 期
教育長	田 村 幸 一	H27. 4. 2～H30. 4. 1
委 員	池 節 子	H26. 10. 1～H30. 9. 30
委 員	藍 田 收	H25. 12. 23～H29. 12. 22
委 員	大久保 信 男	H28. 1. 22～H32. 1. 21
委 員	本 島 博 久	H28. 11. 1～H32. 10. 31

1. 教育委員会の活動

(1) 教育委員会会議の開催状況

		平成27年度	平成28年度
開催回数	定例会	12	12
	臨時会	1	1
計		13	13
付議案件数	審議	36	36
	報告	45	43
計		81	79

(2) 平成28年度教育委員会会議の審議件数一覧

事 項	件 数
教育に関する一般方針について	3
人事案件について	13
規則等の制定・改廃について	15
教育委員会の点検・評価について	1
その他	4
合 計	36

2. 総合教育会議

平成27年4月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部を改正する法律が施行となり、首長（町長）は総合教育会議を設け、首長と教育委員会が教育行政の大綱や重点的に講ずべき施策等について協議・調整を行い、両者が教育施策の方向性を共有し、一致して執行にあたることとなりました。

	開催日	内容
第1回壬生町総合教育会議	6月29日	壬生町教育大綱の見直しについて
第2回壬生町総合教育会議	7月22日	壬生町教育大綱の見直しについて

3. 教育委員会会議以外の活動状況

(1) 学校その他の教育施設等の視察

実 施 日	視 察 先
平成28年 9月16日	羽生田小学校・壬生小学校
平成28年 9月28日	睦小学校・稲葉小学校・藤井小学校

平成28年10月12日	南犬飼中学校・安塚小学校
平成28年10月14日	壬生北小学校・壬生東小学校
平成28年12月14日	壬生中学校

(2) 教育委員の総会・研修会など

平成28年 5月27日 関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会

平成28年 7月 7日～8日 下都賀地区市町教育委員会連合会学事視察

平成28年 7月29日 下都賀地区市町教育委員会連合会教育委員全体研修会

平成28年11月11日 栃木県市町村教育委員会委員研修会

(3) 教育懇談会

平成29年 1月13日 町PTA会長との懇談会

Ⅲ 主な施策ごとの事業概要、評価、方向性

1. 学び合い、文化が薫るまちづくり

基本方針

●豊かな生涯学習社会の実現を目指し、学習機会の提供、内容の充実や学習成果の活用を推進します。

●多様な文化芸術に触れる機会を創出し、文化芸術の振興を推進します。

(1)学習環境の充実

図書館の利便性の向上を図り、幅広い年齢層に読書活動を推進します。また、地域住民の多様化・高度化した学習ニーズに応えるため、魅力ある多様な学習講座を提供したり、社会教育施設の学習環境を整えるための改修、修繕を計画的に行っていきます。

①図書館指定管理運営事業（33,010,000円）

<事業概要及び実施状況>

壬生町立図書館は、平成27年4月1日から指定管理制度を導入しました。図書館の管理運営は、「株式会社 図書館流通センター」が行い、開館時間の延長や祝日の開館等を行い、利用者の利便性の向上に努めております。

平成28年度の開館日数は、313日で、開館時間は、午前9時から午後7時まででした。図書館まつりや工作教室等、独自の図書館事業を実施し、親しみやすい図書館運営を行っております。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
図書館入館者数	延べ入館者数	人	92,334	89,015
図書館貸出冊数	貸出冊数	冊	198,307	198,056

<評価と課題・改善>

図書館の指定管理者制度導入により、開館日数や開館時間が増えるなど、サービスの質の向上が図られ、入館者数や貸出冊数が増加していますが、さらに利用者が利用しやすい図書館づくりをするため、利用者のニーズに対応したサービスの改善及び図書館事業を実施していくことが必要になります。

<今後の方向性>

毎月開催している連絡調整会議やモニタリング評価等を通して、指定管理者により適切に管理運営されているかを定期的に確認し、課題や問題点を改善し、利用者のニーズに対応した利用しやすい図書館づくりに努めていきます。

<評価委員の意見>

2期ではなく5期比較にして指定管理導入前後で比較できるとわかりやすい。全体で2期比較で通しているというバランスもあるのかもしれないが、資料によっては使い分けでもいいと思う。

利用者ニーズに合わせるという今後の方向性を持って一層の努力をしていただきたい。

②まちかど文庫管理運営事業（111,432円）

＜事業概要及び実施状況＞

まちかど文庫は、専任の臨時職員で運営しております。

平成26年4月にオープンし、町民からの寄贈本を中心に運営しており、蔵書も徐々に増えております。また、平成28年7月から「壬生町立図書館貸出文庫コーナー」を設け、図書館の蔵書200冊（児童書、一般書）を2ヵ月毎に借り受け、貸出を行っております。

＜事業実績＞

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
まちかど文庫入館者数	延べ入館者数	人	2,724	3,451
まちかど文庫貸出者数	延べ貸出者数	人	1,072	1,231
まちかど文庫貸出冊数	貸出冊数	冊	2,820	3,116
まちかど文庫蔵書数	蔵書数	冊	8,497	10,283

＜評価と課題・改善＞

町図書館との連携により、読書環境が整備されました。「まちかど文庫」は、主に乳幼児から中学生までの子どもたちを対象とし、地域の小さな図書館的役割を果たしております。引き続き、イベント等も開催しながら、文庫利用者の増を図ってまいります。

＜今後の方向性＞

まちかど文庫は開設して3年程度と年数が浅いですが、利用者は徐々に増えてきました。より周知を図り、利用者増を目指しPRに努めます。

＜評価委員の意見＞

周知活動やPRが重要と思われるので、まちかど文庫のできた素敵な経緯などを使ってうまくアピールしながら、多くの方々に有効に活用していただきたい。利用者数の多少にかかわらず、じっくり長く近所の人達に活用できるような定着化を望む。
図書館と連携しているということで、今後も是非、地元の人に来てもらえるよう望む。

③各種講座等開催事業

◇壬生中央公民館 919,640円

◇稲葉地区公民館 290,377円

◇南犬飼地区公民館 420,991円

＜事業概要及び実施状況＞

壬生中央公民館では、「初心者のための謡と仕舞講座」「山本有三の人生と文学」「韓国料理教室」「開花学級」等12講座、また、夏休みの子ども向け講座として「子ども合唱講座」「親子考古学教室」の2講座、並びに、「昆虫展」を開催いたしました。

稲葉地区公民館では、「初めてのフラダンス教室」「さくら学級」「郷土お楽しみ講座」「こどもチャレンジ手作りパン教室」等9講座を開催いたしました。

南犬飼地区公民館では、「蕎麦打ち教室」「女性セミナー」「クラシックギター講座」「気軽に3B体操」等7講座を開催いたしました。

＜事業実績＞

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
講座開催回数	教室、講座延べ開催回数	講座	226	191
講座受講者数	参加延べ人数	人	3,322	2,816

<評価と課題・改善>

各公民館は、学習機会(生涯学習)提供の場として、町民が参加する教室・講座等を開催し、地域のコミュニケーションづくりのうえで大きな役割を果たしています。

各公民館ごとに教室・講座等を開催しておりますが、開催数及び回数は予算により限度があるため、増やせない状況です。そのため、参加延べ人数につきましては、若干の減少傾向にあります。今後もよりよい教室・講座等を開催し、受講者増を図っていきます。

また、日頃の成果を発表する公民館まつりは、各公民館利用団体による実行委員会により運営され、ステージ部門24団体、展示部門18団体、その他3団体が出演・作品の展示等、多くの利用者が参加しました。今後も公民館活動の1年間の発表の場として、多くの人に参加して楽しめるよう、また、多くの町民に見に来ていただけるようPRを図っていきます。

<今後の方向性>

互いに町民が学びあい、子どもから高齢者を含む幅広い世代にあった講座等を開催していきます。また、公民館講座等から自主的な学習(自主サークル)へと移行するよう、公民館使用料金の減免などの継続的な支援を図っていきます。

◇生涯学習館 1,706,611円

<事業概要及び実施状況>

生涯学習館では、主催講座、委託講座、自主講座の三本立で実施しています。主催講座は、一般向けに「季節の手作り」「デューク更家式健康ウォーキング」「飾り巻き寿司講座」など実用の8講座、親子を対象とした「リトミック」講座(1・2歳児)と「楽しいもの作り教室」(小学生)を実施しました。IT講習は6講座、パソコン初心者向けの「はじめてのパソコンからインターネットまで」とワードとエクセルのそれぞれで初歩の講座とステップアップ講座を実施しました。

町民による団体に委託して実施している「子育て支援事業」には、延べ695組の親子、「生涯学習セミナー企画事業」には、延べ427人が参加しました。また、NPO法人との共催でスマートフォンとタブレット端末の講座も実施しました。

なお、生涯学習館を中心に活動している自主団体の成果発表の場「生涯学習館フェスティバル」は、8団体がステージ発表、11団体が展示、ほか9団体が体験コーナーや模擬店等で参加、会場を盛り上げました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
講座開催回数	講座延べ開催回数	回	125	120
講座受講者数	参加延べ人数	人	988	1,101

<評価と課題・改善>

昨年の実績をみると、講座受講者数は、対前年比12%の増となっており、町民ニーズに多少は対応できたと考えられます。他方で、自主団体の会員の高齢化、固定化は、日常の活動とともに、生涯学習館フェスティバルの開催にも大きく影響を及ぼしています。限られた事業費の中ですが、町民の自主的な学習への継続的な支援は不可欠です。町民の多様な興味やニーズを踏まえ、時代を見据えた内容の講座とすることが必要です。

<今後の方向性>

町民向けの学習講座は、生涯学習関係の施設に限らず、福祉関係の施設などでも実施されています。その中で、本館で実施している情報通信技術講習(通称IT講習)は、町内のどこの施設でも実施されていない生涯学習館を特色づける講座です。生涯学習館として独自性のある、町民にとっても魅力的な講座を実施し、町民の学習意欲や施設の利用向上を図ってまいります。

<評価委員の意見>

多種多様の講座開設は、それぞれの内容に関する向上はもとより、その楽しみや同好の町民の方々が交流する場として大変有効であり、より一層の増幅を望む。
また、今後の方向性にもあるように、利用向上、支援等を行っていただきたい。

④社会教育施設改修等事業

◇中央公民館改修等工事（79,153,200円）

<事業概要及び実施状況>

壬生中央公民館（城址公園ホール）の大ホール舞台照明機構設備は、建築以来31年を経過して、経年劣化が生じており、改修工事が必要なため、第1期工事として平成26年度に「大ホール舞台機構電気設備等改修工事」を実施しました。今回は、第2期工事として、平成28・29年度の2ヵ年事業により、「城址公園ホール舞台照明機構設備改修工事」を実施しております。

三館（公民館・図書館・資料館）の電気設備につきましては、電気の高圧引込ケーブル他機器の老朽化が指摘されていたため、「受変電設備更新工事」を実施しました。

稲葉及び南犬飼地区公民館・分館は、改修工事はありませんでした。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
壬生中央公民館利用者数	延べ利用者数	人	70,136	65,275
稲葉地区公民館利用者数	延べ利用者数	人	5,643	6,715
南犬飼地区公民館利用者数	延べ利用者数	人	16,796	19,320
計	3公民館延べ利用者数	人	92,575	91,310

<評価と課題・改善>

壬生中央公民館（城址公園ホール）の舞台照明機構設備改修工事は、第2期工事により、音響反射板の照明等をLED照明に更新いたしました。また、照明機器の主幹盤や調光器盤等の主たる箇所も更新し、安全性の確保と機器の操作性の向上が図られました。三館（公民館・図書館・資料館）共通の受変電設備が更新され、安全に電気を利用できる環境になりました。

今後、舞台照明機構設備等改修工事の残りの工事（3期分）や中ホール他の公民館等の改修工事につきましても順次更新を図って行きます。

<今後の方向性>

大・中ホールの舞台照明機構設備や三館施設（公民館・資料館・図書館）の改修につきましても、利用環境の向上を目指して、計画的な更新・改修を行い、利用者が安全で快適に利用できるような利便性の向上を図ります。

稲葉及び南犬飼地区公民館・分館につきましても、利用環境の向上を目指して、適時に修繕・改修等を行い、町民が安全で快適に利用できるような利便性の向上を図ります。

◇ふれあい広場改修等工事(631,800円)

<事業概要及び実施状況>

老朽化により、宿泊棟女子脱衣室の床が凹む場所が確認され、床が抜けてしまう虞があるため、宿泊棟脱衣室床板を改修する工事を実施しました。また、宿泊棟の空調機が故障したため、空調機を改修する工事を実施しました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
利用者数	ふれあい広場延べ利用者数	人	12,376	12,158

<評価と課題・改善>

施設の老朽化に伴う改修工事の実施により、利用者の利便性の向上や快適性の向上を図っております。

改修工事の実施に際しては、一時的ではありますが、施設の利用を制限し、利用者にご不便をおかけすることが課題です。

<今後の方向性>

今後も修繕、改修工事が必要になっていますが、優先順位を付け、計画的な整備に努め、利用制限の期間をできるだけ短期間で実施するよう努めていきます。

<評価委員の意見>

町民が自慢できる施設の維持、また、町民交流学習の拠点として、しっかりとした事業の展開を望む。

(2)文化芸術の振興

多様な文化芸術に触れる機会と実演する楽しさを融合し、豊かな感性と文化芸術が薫るまちづくりを図ります。

①音楽によるまちづくり推進事業（396,000円）

<事業概要及び実施状況>

団体運営費を補助することにより、児童生徒による合唱活動を通して、地域文化の向上と音楽教育の振興を図ったり、中学・高校と修得した演奏技術を継続的に活用し、演奏会を開催したりすることで、地域活性化と音楽教育の振興を図っています。

<評価と課題・改善>

地域文化の向上と音楽教育の振興が図れ、また、町民の豊かな情操を高めたり、人間形成を図ることができそうですが、継続的な活動を図っていくうえには、団員を確保していかななくてはなりません。そのため、イベント等での公演を通して、活動内容のPRを図っていく必要があります。

<今後の方向性>

壬生町における音楽文化の向上及び普及を図ることにより、音楽によるまちづくりを推進し、地域の発展に寄与していきます。

<評価委員の意見>

コーラスなど音楽活動をする団体へ発表の場を提供するなどの支援も継続していただきたい。

「音楽によるまちづくり」を推進している町としてのPRをもう一度前面に押し出しても良いのではないかと。

②文化祭等の芸術文化推進事業

◇音楽鑑賞会等公演事業（13,524,500円）

<事業概要及び実施状況>

平成27年度まで壬生町施設振興公社で行っていましたが、平成28年度から町で実施することになりました。

平成28年度は「オーケストラで歌う青春ポップスコンサート」「山形交響楽団～ドラゴンクエストの世界」「パスカル・ロジェ ピアノ・リサイタル」の3公演を実施いたしました。

＜事業実績＞

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
入場券購入者数	購入者数（3公演）	人	—	1,962
入場券購入率	購入者数／入場券総数（3公演）	%	—	64.7

＜評価と課題・改善＞

平成28年度からは、壬生町施設振興公社から事業を引継ぎ、公演事業の選定にあたっては、「町音楽鑑賞会等公演事業企画選定会議」に諮り、実施いたしました。

音楽鑑賞会等公演事業は、演奏者等の内容により入場者数に大きく影響が出てくるため、より興味のあるものを選定し、実施を図るとともに、幅広くPRを図っていきます。

＜今後の方向性＞

平成29年度からは、「壬生町音楽鑑賞会等公演事業審議会」を設置して、公演事業を選定し、事業の実施を図っていきます。

◇文化祭開催事業

＜事業概要及び実施状況＞

文化祭は、壬生町文化協会が主体となり、町教育委員会との共催で、開催しております。

平成28年度の第38回文化祭は、文化協会の各部門ごとに、10月2日から30日の主に土・日曜日に開催いたしました。

＜評価と課題・改善＞

文化祭は、文化協会の各部門ごとに開催しているため、期間が長く、また、様々な作品の展示・ステージ発表等が行われております。しかし、来客者がそれぞれに少ない状況のため、幅広いPRを行って、来客者増を図っていきます。

＜今後の方向性＞

文化祭は、各部員の1年間の発表の場として行われているので、活動の成果を会員はもとより、町民の皆さんに見て・参加していただき、文化の振興に寄与してまいります。

＜評価委員の意見＞

音楽鑑賞会等公演事業は、演奏者等の知名度や内容に依存せずに、イベント単体の宣伝ではなく事業を総合的に宣伝するなど工夫することにより入場者を増やせるのではないかと。文化祭開催事業は、テーマやスローガンなどを掲げた方が開催の趣旨もわかりやすく興味を持った来場者が増えるのではないかと。

2. 誇れる歴史と伝統を受け継ぐまちづくり

基本方針

- 文化財について、調査研究を行い、文化財の指定措置等を講ずることにより文化財の保護・整備に努めます。
- 史跡の保護について、保存活用計画書を策定し、適正な保存管理に努めます。
- 新たに郷土から輩出した人物や壬生の文化遺産の発見と振興に努めます。

(1)文化遺産の保護・活用

貴重な文化遺産を後世に良好な状態で引き継ぐため、文化財の調査・研究及び保護活動を積極的に取り組みます。

また、町内に残る歴史遺産を活用した文化財めぐり等の実施や古墳などの史跡公園を旨とした調査・整備活動を推進します。特に、国指定古墳の公有化を進めるとともに、文化財の保護に努めます。

①壬生古墳発掘調査及び保存活用計画書策定事業

◇壬生古墳群調査整備委員会の開催(198,000円)
及び車塚古墳・牛塚古墳発掘調査事業(2,759,000円)

<事業概要及び実施状況>

保存活用計画書策定に伴う基礎資料を得るための発掘調査を車塚古墳及び牛塚古墳において実施しました。特に、車塚古墳における発掘調査では、石室前面の祭祀の場である「前庭^{ぜんてい}」の施設を確認。発掘調査は、壬生古墳群調査整備委員会の指導のもと実施しました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
国指定古墳数	5基中調査終了古墳数	基	1	2

<評価と課題・改善>

車塚古墳の発掘調査が当初の計画から一年延びましたが、構築時の石室の確認、前庭の確認、二重目の周溝の確認と、大きな成果をあげることができました。発掘調査は、地下に埋蔵する物件が対象のため、予想以外の発見もあり、年間計画のとおり事業が進まないのが、大きな課題です。

<今後の方向性>

調査整備委員会の指導のもと、有意義な保存活用計画書を策定できるよう、緻密であるとともに、正確な発掘調査を行っていくことが必要です。

<評価委員の意見>

壬生にはまだ多くの埋蔵物の存在を指摘されており、今後も予想外の発見を想定した柔軟な計画と埋蔵資料の調査を進めていただきたい。

②発掘調査参加大学との連携事業

◇車塚古墳現地説明会及び古墳シンポジウムの開催

<事業概要及び実施状況>

発掘調査期間中に、現地説明会を大学生主体で開催しました。茨城大学との連携事業の一環として、「古墳関連シンポジウム」を開催し、県内外から多くの参加者を募ることができました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
参加大学生数	連携事業参加者数	人	40	35

<評価と課題・改善>

シンポジウム等の町との連携事業については、300人ほどの参加者を募ることができました。しかし、町民と大学生が身近に触れ合う連携事業が行われていないのが、今後の課題です。

<今後の方向性>

大学生が主体となり、古墳を発掘調査する事業は、三年目を迎え、定着してきた感があります。しかし、大学生との連携については、まだ、不十分であり、次年度からは、新しい取り組みを入れていく必要があると考えます。

<評価委員の意見>

発掘調査に参加した大学生に対しメリッ的なものがあるといいのではないかと。遺跡・史跡近隣の住民や自治会などに詳しい資料を提供して興味を深めてもらい、積極的に住民に参加してもらうなど方法を検討していただきたい。

③みぶ古墳群解説ボランティア育成事業

◇古墳スクールの開講及び古墳解説の実施

<事業概要及び実施状況>

外部講師を招いての古墳スクールを開催し、会員の古墳に対する知識の向上を図りました。車塚古墳において発掘体験講座を開催。本年度は、管内6小学校、275名に対し、壬生の古墳を解説。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
みぶ古墳群解説ボランティアの会会員数	ボランティア参加希望者数	人	35	42

<評価と課題・改善>

本年度から順調に管内小学校の6年生に対し、古墳の解説を行いました。また、同ボランティア団体は、町教育委員会主催の発掘調査地の現地説明等にも協力するなど、壬生の古墳全体に対する支援活動を実施中です。

<今後の方向性>

会員の古墳に対するスキルアップとともに、小学生に対するより良い解説を目指し、研究を重ねていく必要があります。また、今後は、一般の方へも解説を広げていくことが、同会の飛躍につながっていくと考えます。

<評価委員の意見>

地元の子供達を始めとする多くの方々に興味深く知っていただけるよう事業のスキルアップをしていただきたい。

④文化財保存・活用事業

◇文化財保存管理事業(2,558,000円)

<事業概要及び実施状況>

町内にある国史跡4か所、県史跡1か所の除草を行い、史跡地の維持・管理に努めています。

◇埋蔵文化財発掘調査事業

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
発掘届受理件数	遺跡の保護の把握	件	35	45

<事業概要及び実施状況>

民間開発に伴い、提出された45件の発掘届出に基づき、21件の立会調査、5件の試掘調査、1件の発掘調査を行いました。特に、発掘調査は赤土採取工事に伴う古墳（三番塚古墳）の発掘調査です。

<評価と課題・改善>

開発に伴う発掘届出の事務については、遺跡の周知が徹底されてきたため、以前に見られたような無届の開発行為は減少してきました。しかし、近年、赤土採取工事の届出が急増するとともに、遺跡地内の採取が増加している現状があります。

<今後の方向性>

発掘届出に関する事務は従来どおりで行うことにより、遺跡の保護が図られると考えます。しかし、今後、緊急発掘調査が増加することにより、早急な人員の配置が望まれます。

<評価委員の意見>

緊急の発掘調査が滞ることは、現地の開発者にとっても損失になると思われ、担当人員の確保は重要かつ急務であると思われる。

(2)地域伝統・歴史の再興・継承

地域に伝わる文化遺産の調査・研究を行い、特に、郷土芸能などは、良好な状態で、後世に引き継げるよう、伝統の継承に努めます。

①保存会伝承に伴う補助事業(490,000円)

◇文化財保護管理事業・町指定無形民俗文化財補助金(490,000円)

<事業概要及び実施内容>

町指定無形民俗文化財保存会14団体への補助を行い、貴重な文化遺産である郷土芸能の伝承に努めました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
保存会数・15団体	補助金活用団体	団体	14	14

<評価と課題・改善>

無形民俗文化財の伝承には、道具等の修繕及び更新が欠かせないものとなっています。よって、今後は、栃木県の補助制度を活用し、各保存会の道具等の修繕事業を実施していきます。

<評価委員の意見>

有効な補助を適切に活用していただきたい。

②無形民俗文化財公開事業

◇みぶ郷土芸能フェスタの開催

<事業概要及び実施内容>

本年度から、会場をみぶハイウェーパークにかえ、「みぶ郷土芸能フェスタ」と名称を変更し、民俗芸能の公開事業を行いました。町指定団体以外の参加もあり、多くの来場者に壬生の郷土芸能を披露することができました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
来場者数	囃子聴講者数	人	50	32,000

<評価と課題・改善>

民俗芸能の演奏のみで来場者数を増やすことには限界があります。しかし、ハイウェーパークという不特定多数の来場者を迎える施設においては、多くの方の耳に壬生のお囃子の調べが聞こえたと思います。今後の新しい民俗芸能の公開の仕方であると考えます。

<今後の方向性>

みぶ郷土芸能フェスタを定期的に行うことにより、各保存会の披露の場が増えるとともに、後継者の育成にもつながると考えます。今後は、他の市町の保存会にも出演していただき、公開事業の活性化を図っていきたいと考えております。

<評価委員の意見>

無形文化財の多くは聴衆や観衆があつてこそその存在であり、多くの人々に見ていただける機会を増やすことは、文化財を保存する上でも有効であると思われるので、事業の活性化を望む。

③無形民俗文化財連絡協議会設置事業

◇壬生町無形民俗文化財連絡協議会の設立

<事業概要及び実施内容>

町内にある15の保存団体が、後継者の育成・芸能の公開等において、協働で行うことを目的に設立しました。年3回程度役員が集まり、各保存会の活動状況や公開事業などについて、話し合っています。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
会員数	伝統芸能伝承者数	人	122	未調査

<評価と課題・改善>

お囃子の流派を超えて、各保存会が団結したことに大きな意義があり、同連絡協議会が中心となり、後継者不足に悩む団体等への積極的な支援が望まれます。

<今後の方向性>

同連絡協議会の次の世代にむけた執行部の育成を行いながら、一致団結し、後継者育成事業・芸能の公開等の事業を行うことにより、壬生の郷土芸能の伝承を図っていきます。

<評価委員の意見>

今後も継続してほしい。
無形民俗文化財のそれぞれの内容を文書化したり、技法の違いなどを記した資料を作成してまとめておけば、それを読んだ人が聴きに行きたくなるのではないかと。

(3)地域の歴史の再発見・発信

地域の歴史について調査・研究を行い、その結果を企画展や講座などで発表し、住民が地域に愛着と誇りを持てるように啓発に努めます。

①企画展開催事業(2,791,181円)

<事業概要及び実施状況>

「郷土の偉人顕彰作業」を掲げ、「人となりや業績」を題材とした企画展等の開催を通して、郷土文化の再認識と意識の高揚を図っています。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
企画展入館者	延べ入館者数	人	2,172	2,512
企画展講演会	聴講者	人	280	411

<評価と課題・改善>

①郷土の偉人顕彰事業 → “文武共に精出、成徳達材(心を育て、才能を伸ばすこと)”を家訓とした「家祖 鳥居元忠」の調査により、精忠神社から国内最古級の<武者行列>映像を発見

②企画展開催事業 → 『鳥居元忠-山城伏見ノ別レ-』の開催(2/4-3/19)

③壬生論語古義塾育成事業 → 改定『壬生論語古義抄』(2,500冊)再版

特に、28年度企画展開催事業「鳥居元忠」では、地元からみた“鳥居元忠”を紹介。<武者行列>映像の発見から、元忠の家康公に対する忠義心が当時の壬生町民の精神的支柱になっていたことが分かりました。

<今後の方向性>

継続的に「郷土の偉人顕彰作業」を行い、全国に“学問の府・壬生”を発信するため、2020年までに「全国藩校サミット・壬生大会」の開催を目指します。

<評価委員の意見>

壬生町に縁のある偉人はまだまだ多くいると思うので、それら偉人の発掘、調査や町民への周知などに力を入れてもらいたい。

「全国藩校サミット」という全国規模のイベント会場になることは、町のPRになると同時に町民の興味も深まり自信に繋がることと思うので是非その成功を望む。

3. 未来を担う子どもたちが健やかに育つまちづくり

基本方針

- 子どもたちが元気に過ごせる特色ある学校づくりを進めます。
- 教育環境及び教育内容の充実や、学校、家庭、地域の連携強化を図ります。
- 学校施設の適正な整備や維持管理を図ります。
- 夢と志のある人づくりを推進します。

(1)教育内容の充実

教職員がお互いに高め合うための研修の場の設定、多様な教育活動を可能にするための人員の配置、就学指導を含めた相談体制の充実、子どもたちが安心して学ぶことができる教育環境の整備を図ります。

①学力向上支援事業

◇小・中学校学力向上支援事業(75,952,058円)

<事業概要及び実施状況>

壬生町立小・中学校に学校教育支援員や教員助手、フルタイム・ティーチャーを配置し、少人数指導やT・T（チーム・ティーチング）による、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導や基礎学力の向上を図り、多様化する学習内容等への対応を充実させるとともに、児童生徒に確かな学力を身につけさせ、学力向上や学校生活支援等の指導を図っています。

【用語解説】

○学校教育支援員

学力向上支援員が、T・Tによる学力向上支援及び特別支援学級の児童生徒の学習支援や生活支援を行います。また、学校生活支援員が、発達障がいや身体的障がい等のために学校生活全般において常時支援が必要な児童生徒に対して個別の生活支援を行います。

○教員助手

小学校の外国語活動の授業、中学校の数学・英語等の教科支援の授業及び、外国人等日本語指導が必要な児童生徒の支援を行います。

○フルタイム・ティーチャー

複式学級において、複数教員による授業を行うことにより、通常一人の教師が2学年の授業を受け持つデメリットを解消し、学力向上を支援します。学年担任として正規の教員とほぼ同様の勤務態勢を執っています。

○T・T（チーム・ティーチング）授業

学級数を越えた人数で行う授業。1学級を2名の教員で指導したり、2学級を3グループに分け、5名の教員がそれぞれ指導したりしています。

○複式学級

小学校において、児童数が2つの学年で16人以下の場合（1年生を含む場合は8人以下）、中学校においては、生徒数が2つの学年で8人以下の場合、2つの学年で1学級となります。

○外国語活動

小学校学習指導要領の改訂により、平成23年度から小学校5、6年生に義務化された、「外国語活動」や国際理解に関する学習において、外国語を用いて、互いの思いや考えを伝え合うことの楽しさや大切さを体験できるような活動をとおして、コミュニケーション能力の素地を養います。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
学校教育支援員等の人数		人	40	42

<評価と課題・改善>

本事業は、学力向上支援員を配置することで、学習面・生活面において、支援を要する子どもたちへ、きめ細やかな指導が実現するとともに、個別の支援を実施することで、効果的な学習指導が実施されました。

学力向上支援員等を配置したことによる効果の検証が必要になっています。

<今後の方向性>

多様な教育的ニーズに対応できるよう、人的支援体制や支援員の研修なども検討し、学力向上につながるよう、指導力の向上に努めていきます。

<評価委員の意見>

支援員は何かと悩みもあるかと思うので相談できる機関を設けられれば良い。学力が向上したかどうか、指導方法と内容の判定は外部から見てわかりにくい、工夫と継続により効果を上げていただきたい。

②情報教育推進事業

◇小・中学校情報教育推進事業(28, 119, 131 円)

<事業概要及び実施状況>

情報教育に対応した学校教育を実現するための情報通信ネットワークを整備し、効率的・効果的に利用できる環境整備を図るためパソコン等の更新などをリース契約により実施しています。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
更新整備台数	更新台数	台	0	0
全校の保有台数	保有台数	台	773	776

<評価と課題・改善>

年次計画により2～3校ずつ更新を行っていますが、平成28年度は更新がありませんでした。情報機器の更新には多額の費用がかかりますが、OSなどのサポート期間が決まっているため、期限が切れないよう随時更新していく必要があります。

<今後の方向性>

情報社会に対応した教育環境を整備するため、今後はタブレット機器や書画カメラについても導入していきます。また、Wi-Fi環境を体育館等にも整備し、体育の授業などにおける情報機器の活用や災害時の通信環境を整えます。また、ネットいじめやネットトラブルに巻き込まれないようみぶっ子スマホケータイ宣言によりスマホの所持やLINE等のSNSの使用について注意喚起していきます。

<評価委員の意見>

モラルについての授業を充実させていただきたい。子供達だけではなく保護者にも必要ではないか。タブレットは使用できるのにスマホや携帯の所持を禁止するなど矛盾する部分もあるので良い解決策を望む。

③社会体験活動推進事業

◇マイ・チャレンジ推進事業(869, 299 円)

<事業概要及び実施状況>

地域における人との関わりを主とした社会活動を通じて、共に生きる心や感謝の心を育むため、仕事の大切さを教えるため、中学校2年生を対象に実施しています。また、社会体験活動を通して地域を愛し、地域から愛される人間を育成します。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
社会体験事業所数	事業所数	社	128	130

<評価と課題・改善>

直接的な社会体験を通じて、自己の生き方、勤労の尊さを感じとらせることができました。また、様々な職業に対する考え方や学習の必要性を理解するなど、生徒の意識が高められました。事業所の選定については、できるだけ生徒の希望を反映できるようにしています。

<今後の方向性>

職場体験学習は、生徒の成長段階に応じた勤労観や職業観の育成、自己有用感の醸成などに役立つので今後も実施していきます。

<評価委員の意見>

とても良い活動だと思われるので、多くの体験機会を与えていただきたい。
中学生だけでなく我々も含め、お互いにとって身近に感じられる関係になりたい。

④夢と志のある人づくり推進事業

◇教育支援事業 (112,160円)

<事業概要及び実施状況>

障がいがあるため、小・中学校の通常の学級では十分な教育効果を期待することが難しい児童・生徒に対して、どのように対応するか様々な情報を提供しながら保護者とともに考えます。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
教育支援委員会で審議した児童・生徒 ()内は入級・入学者数	知的障がい特別支援学級入級適	人	50 (33)	38 (25)
	自閉症・情緒障がい特別支援学級入級適	人	20 (12)	20 (16)
	要観察	人	5	2
	合計	人	75 (45)	60 (41)

<評価と課題・改善>

専門家(臨床心理士や医師)を交えた教育支援委員会で審議をし、児童生徒にとって適切と思われる学級への入級への指導を行いました。保護者の理解が得られず、支援委員会の答申どおりに入級した児童生徒は平成27年度は60%でしたが、平成28年度は68%となっており若干ではありますが、保護者の特別支援学級に対する理解が深まってきたと思われまます。

<今後の方向性>

保育園や幼稚園の訪問など、就学前機関との連携を深め子どもの状況を早めに把握し、適正な就学が図れるよう努めていきます。また、特別支援学級について保護者の理解を得られるよう啓発していきます。

◇学校生活問題対策事業 (301, 200 円)

<事業概要及び実施状況>

学校生活における児童・生徒の意欲や満足感、及び学級集団の状態を計るためハイパーQ-U (心理) テストを小学校5年生と中学校1年生で実施します。また、食物アレルギー等の問題を抱える児童・生徒への教師の対応力向上のため各種講習会を実施します。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成 27 年度	平成 28 年度
ハイパーQ-U 実施人数	実施人数	人	756	708
各種講習会実施回数	実施回数	回	1	2
講習会参加人数	参加した先生の数	人	30	60

<評価と課題・改善>

ハイパーQ-Uテストの結果により支援を必要としている児童生徒を把握でき個人指導や保護者の面談に役立てることができました。また、結果を次学年以降や中学校に申し送ることにより継続的な指導や学級編成に役立てます。

Q-Uテストの分析と活用に関する講習会を行うことにより、テスト結果を有効活用できるよう努めていきます。

<今後の方向性>

ハイパーQ-Uテストは、児童・生徒の学校生活の満足度を測定するのに大変役立つので実施学年を増やせるよう要望していきます。

また、食物アレルギーやQ-Uテストの効果的な活用などの講習会を行い教師のスキルアップにつなげていきたいと思えます。

◇教育相談員配置事業 (9, 490, 588 円)

<事業概要及び実施状況>

不登校などの問題を抱えている児童・生徒の保護者や学校などからの教育相談・適応相談に対応するため、教育相談員4名を配置し必要な助言や指導を行っています。また、適応指導教室ひばりは不登校児童・生徒の貴重な学力保証の場にもなっています。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成 27 年度	平成 28 年度
相談件数	電話・来所件数	件	1, 101	858
復帰者及び高校進学者	復帰者及び高校進学者	人	5	5

<評価と課題・改善>

不登校児童生徒の保護者や本人と面談を行い、学校復帰、高校等への進学の実態に合った指導を行っています。適応指導教室「ひばり」では各教科の個別学習やグループ学習、調理実習などの体験学習、各種スポーツなど学校復帰に向け一人ひとりの実態にあった指導を行っています。また、県教育委員会の委託事業であるフリースクール等で学ぶ不登校児童生徒への支援モデル事業を活用し、家庭教育支援員による家庭訪問等を行っています。

<今後の方向性>

不登校児童生徒は、自信を失っていることが多いことから保護者に対し子供に自信を取り戻させる方法などをアドバイスしていき、また家庭教育支援員による家庭訪問等を実施し、早期の学校復帰を促していきます。

<評価委員の意見>

外部から見えにくい事業ではあるが、少数の見極めや自信を失っている人に対する事業の推進は大切だと思われるので、今後もしっかりと続けていただきたい。

(2)教育環境の充実

①学校施設改修事業

◇小・中学校施設修繕及び改修事業(196,477,146円)

<事業概要及び実施状況>

安全で快適な学習環境の整備を図るため、学校施設の修繕・改修工事を行います。また、学校施設は災害時において地域住民等の避難場所の役割も果たすことから、防災機能向上のため「地震防災対策特別措置法」に基づき学校建物の耐震補強工事を実施し、平成26年度で全ての学校で構造体の耐震補強工事が終了しました。平成28年度はつり天井の撤去などの非構造部材の耐震補強工事を主に実施しました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
修繕及び改修工事	実施した件数	件	82	92

<評価と課題・改善>

平成28年度は修繕・改修工事を小学校67件、中学校25件実施しました。

主なものとして、壬生小学校・藤井小学校・南犬飼中学校のつり天井などの非構造部材の耐震補強工事を行いました。

当町の学校施設は、建築から30年以上が経過し、老朽化が進んでいるので継続的な修繕・改修が必要となっており、それにかかる費用も増大しています。

<今後の方向性>

構造体の耐震化率は100%になりましたが、今後は非構造部材の耐震化を行い、児童・生徒の安全安心で快適な学習環境の確保、緊急時の避難場所の確保を行っていきます。また、老朽化した校舎の修繕・改修工事を計画的に行っていきます。

<評価委員の意見>

安全な学習環境と生活の場、避難所としての活用に必要な適所の改修を進めていただきたい。

②学校給食及び食育充実事業

◇学校給食地産地消推進事業(56,398円)

<事業概要及び実施状況>

学校給食において、地元で取れた農産物を積極的に取り入れ、食べることを通じて、郷土に対する愛着や食に対する感謝の気持ちを育む情操教育を推進する。

食生活の改善により、子どもたちの心身の健全な発達や生活習慣病予防につなげるために、生きる力を育むための基本的な生活習慣を身につけ、家族と連携し、家族で食べることや朝食を必ずとることの大切さをおしえる。

各小学校において、1年生の保護者を対象にした食育に関する講話と、給食試食会を実施しています。また、学校によっては、招待給食として、PTA・高齢者・農業関係者を招いて給食試食会を実施しております。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
地場産物地産地消率		%	45.1	27.1

<評価と課題・改善>

食育の推進を図るため、さまざまな機会に食育を取り入れ、児童生徒の食に関する関心をたかめ、家庭用配布リーフレット等をとおして、保護者への啓発を図る。

<今後の方向性>

今後も、引き続き安全安心な給食を提供するとともに、地場産の食材の品目及び使用を増やして地場産食材を活用した給食を提供できるように努め、食育をより推進するための取組を継続して実施していきます。

<評価委員の意見>

まちなか探検のように畑など地元農産物の生産状況の見学を実施したり、遠足などの校外活動の時に旬の作物を教えるような食育をするなど食と季節の身近さを実感させていただきたい。

地産地消率の低下を気にするよりも引き続き食の安全性を確保していただくことを望む。

③学校給食委託事業

◇小中学校給食委託事業 (68,332,680円)

<事業概要及び実施状況>

学校給食業務委託については、平成20年度に壬生中学校、平成22年度には南大飼中学校、平成24年度からは壬生小学校を民間業者委託へ移行しました。平成26年度からは、藤井小学校・稲葉小学校・羽生田小学校3校合わせて、平成28年度からは壬生北小学校を民間業務委託へ移行しました。

各小学校において、1年生の保護者を対象にした食育に関する講話と、給食試食会を実施しています。また、学校によっては、招待給食として、PTA・高齢者・農業関係者を招いて給食試食会を実施しております。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値(累計)	
			平成27年度	平成28年度
学校給食業務委託校		校	6	7

<評価と課題・改善>

学校給食業務については、平成24年度から長期継続契約による業務委託をすることができ、事務経費の節減ができました。また、調理員の急病等の突発的な事象にも迅速な対応がなされ、安全で安心な学校給食を効果的・効率的に提供することができました。

給食施設の老朽化にともない、調理用備品についても購入してから古い物は30年を経過しており、器具が使用できなくなった場合の備品の購入について、検討することが必要となってきます。

<今後の方向性>

今後も安全管理、危機管理体制の更なる構築を目的に、学校給食調理員の退職に伴い、計画的に民間業者委託への移行を図ります。藤井小学校・稲葉小学校・羽生田小学校の3校については、共同調理場で給食を作り配送で給食を提供する親子方式の運営を取り入れ、安全で安心な給食の充実に努めていきます。

器具等の更新についても、計画的な備品の入替を計って行きます。

<評価委員の意見>

学校給食業務の委託により安全安心な学校給食の運営に問題が生じないよう、引き続き管理を徹底してやっていただきたい。

安全で安定した供給システムを構築することが必要だと思われるので、より充実した内容を今後も望む。

4. 明るく元気な生涯スポーツのまちづくり

基本方針

- 住民のスポーツ活動の拠点となる施設の整備や充実を図ります。
- 地域住民が主体的に運営する総合型地域スポーツクラブを育成・支援します。

(1)生涯スポーツの充実

スポーツは単に競技を行う人だけに関わるものではなく、近年は、スポーツを通じた健康の保持・増進や地域社会の再生など、すべての地域住民への関わりを求められようになってきました。

生涯スポーツとは、その生涯を通じて、健康の保持・増進やレクリエーションを目的に「だれもが、いつでも、どこでも気軽に参加できる」スポーツのことで、都市化・少子化などによって外遊びの機会が減少し、体力が低下している乳幼児・児童から、高齢化社会における生きがいを求める高齢者まで、幅広い年代層を対象とし、障がい者スポーツもこの範疇に含まれています。この生涯スポーツの推進を図るため、講習会や研修の開催・参加により、スポーツ推進委員などの人材の育成・確保を維持するとともに、総合型地域スポーツクラブの運営支援を継続して行います。

また、町のスポーツ拠点となる町運動場の施設整備や、地域の特色を生かした身近なスポーツ設備の整備、町全体でバランスを考慮した施設の配置など、町民の誰もが利用しやすい環境を確保することにより、効果的かつ適正な施設の管理・運営を推進します。

①総合型地域スポーツクラブ支援事業(4,240,000円)

<事業概要及び実施状況>

総合型地域スポーツクラブとして、平成23年2月に設立した「ゆうがおスポーツクラブ」は、「みんなで、汗を、ふれあいを！」を基本理念に、気軽にスポーツを楽しめる場を創り、健康で明るい活力あるまちづくりを目指し、スポーツを体験・修得できる、各種教室やイベント等を開催しています。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
会員数	登録者数	人	553	604
教室・イベント数	教室・イベント数	個	22	23
教室・イベント参加者数	参加者数	人	5,267	5,058

<評価と課題・改善>

スポーツには体力の向上や生活習慣病の予防など個人に関すること以外に、青少年の健全育成や地域住民の交流などを深める効果があるとされています。

ゆうがおスポーツクラブでは、子どもから高齢者までが参加できる各種教室及びイベント等を開催しており、世代を超えた交流が図られ、日常的に身体を動かす機会の増加により、子どもの体力向上や高齢者の健康保持増進に大きな役割を果たしています。

会員数は年々増加傾向にありますが、より魅力的な各種教室事業やイベントの実施や、会費(年会費等)の見直し等を図ることなどにより、会員や教室・イベント事業への参加者数を増加させていく必要があります。

<今後の方向性>

ゆうがおスポーツクラブに入会しやすい環境を整備するため、年会費等の見直しを図ります。

各種目に応じた質の高い指導者による適切な指導や、学校運動部と連携・協力し、子どもたちに多様なスポーツ環境を提供することにより、教室事業や各種イベントの充実化を図ります。

また、広報活動の強化、協賛企業への働きかけの強化を図ります。

②運動場管理事業（23,417,701円）

＜事業概要及び実施状況＞

武道館南側において雨天時に箱樋から漏水することにより軒天が雨漏りし、天井板に穴が開き崩壊する等損傷が激しいため、南側屋根箱樋、軒天の修繕を実施しました。非常用発電機の蓄電池が経年劣化により変形してしまったため交換修繕を実施しました。

Aグラウンド給水管から漏水しているため、新たに止水栓から水栓まで給水管の布設替工事を実施しました。

その他にもテニスコート、トレーニングルーム、体育館等において軽微な各種修繕を実施しました。

＜事業実績＞

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
利用者数	運動（北部・南部含む）	人	69,733	62,142
	テニスコート	人	19,452	19,570
	武道館・弓道場	人	15,085	12,795
	体育館・卓球室	人	26,941	29,409
	会議室	人	3,006	3,700
	トレーニングルーム	人	8,116	8,867
	合計	人	142,333	136,483

＜評価と課題・改善＞

武道館南側屋根箱樋、軒天及びAグラウンド給水管漏水の他、各施設の修繕及び改修工事を実施したことにより利用者の安全性と快適性を確保しニーズに応えることができました。

また、住民の健康増進や体力作りに対する関心が高まり、スポーツ活動に参加する人が増加傾向にあるため、トレーニングルーム、体育館等、天候に左右されない屋内施設の利用者数が増加しております。

今後も利用者数が減ることのないよう安全性及び快適性を考慮した維持管理に努めていくことが求められています。

＜今後の方向性＞

体育館やトレーニングルーム等、現行の施設は老朽化し、床面積も狭いなど住民のニーズを満たし切れていない現状ではありますが、安全で快適に利用して頂くためにも適正な維持管理、運営を図りながら、住民のニーズに応じた施設の整備を検討します。

③ふれあいプール管理事業（65,212,331円）

＜事業概要及び実施状況＞

経年劣化による各ポンプのオーバーホール、スライダープール濾過機濾材交換工事の他、直線スライダー2基の滑走面に亀裂、アドベンチャースライダー滑走面の一部に剥離があり非常に危険なため、滑走面のライニング補修及び塗装を実施しました。

また、幼児、子ども用プールの外周床面の人工芝が劣化により下地が剥き出しとなっている部分が多く非常に危険なため、人工芝を撤去しゴムチップによる舗装を実施しました。

その他にもプール開設前の点検修繕を始めとし、各設備等の修繕及び工事を実施しました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
入場者数	プール入場者数	人	53,563	46,181

<評価と課題>

平成28年度においても、7月の第3土曜日に開設し海の日が絡んだ3連休の初日に合わせる形となりました。各設備の修繕及び工事を実施したことにより利用者からも好評を得ることができました。しかしながら、台風や集中豪雨及び低温等の天候不順の影響により、入場者数は27年度よりも減少してしまいました。屋外施設のため天候の影響を直に受けってしまうこと、築後30年以上を経過しているため経年劣化による各設備等の損耗、老朽化が目立ってきており、安全で衛生的な施設の維持管理が求められています。

<今後の方向性>

今後も計画的・効果的な改修を行い、安全で快適な施設の維持管理に努め、利用者の安全性の向上を図ります。

<評価委員の意見>

施設の維持管理についてだが安全に使用できるよう十分な配慮のもとに整備をしていただきたい。

ふれあいプールなどは町民だけでなく他市町の方々にも良い評価をいただいている町民自慢の施設でもあるので、その評価を維持したままで今後も維持管理に努めていただきたい。

(2)多様なスポーツの振興

住民がスポーツに取り組むきっかけとなるよう、スポーツ推進委員や体育協会等の協力のもと、ゆうがおマラソン大会等を開催します。

東京オリンピック・パラリンピックや栃木国体開催を見据え、体育協会等との連携を図り、競技スポーツにおける人材の発掘や選手の強化・育成等を図ります。

①ゆうがおマラソン開催事業(6,511,559円【内スポーツ振興くじ助成金5,209,000円】)

<事業概要及び実施状況>

平成28年度の「第5回壬生町ゆうがおマラソン大会」は、ゲストラランナーに「高橋尚子」さんをお迎えし、10kmコースを含めた16種目で実施しました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
大会申込者数	エントリー数(幼児を除く)	人	2,595	2,721
町民の申込者数	〃	人	953	919

<評価と課題>

参加者の感想では、ゲストラランナーの好印象が大きく、また、平坦な田園地帯を走るコース設定についても好感を持たれております。

大会を盛り上げるボランティア団体についても、壬生中・南犬飼中学校、壬生高校、白鷗大学、町内ボランティア団体などが数多く参加し、大会に彩りを添えています。また、イチゴジュースやカミナリ汁の無償提供など特産品のPRや、おもちゃ博物館入館料割引の実施など、町の観光資源をPRすることにより、町政振興に寄与することができました。

大会申込者数は増加していますが、町民の申込者数が減少しており、町民の健康増進を図る観点から、町民参加率の向上を図る必要があります。

運営費については、独立行政法人日本スポーツ振興センター（toto）の助成金（対象額の80%補助）を活用しており、コストの削減が図られています。

<今後の方向性>

スポーツを通じた人と人の交流及び地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成するため、町民の大会参加率の向上を図ります。

また、マラソン大会を通じて壬生町の地域資源を積極的にPRします。

②壬生町駅伝チーム育成支援事業（1,018,877円）

<事業概要及び実施状況>

栃木県郡市町対抗駅伝競走大会には、壬生町としての単独チームは平成22年度から参加しています。

本大会に向け、30名の強化選手が監督を中心に強化練習会を町の陸上競技場などで行ないました。また、レース感覚を養うために他市町のマラソン大会にも出場し年間を通じて選手の強化を図っています。中学生の強化選手については、各中学校の陸上部と推薦された選手を指定しています。

また、平成25年度から町内の各小学校から選手を募集し栃木県小学生駅伝競走大会にも出場しています。平成28年度は、3チーム出場し、計30名が参加しました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
郡市町対抗駅伝選手数	登録人数	人	26	30
郡市町対抗駅伝競走大会順位	チーム数・順位	位	31チーム中 31位	30チーム中 29位
小学生駅伝選手数	登録人数	人	25	30
県小学生駅伝競走大会順位	チーム数・順位	位	44チーム中 12位 33位	49チーム中 24位 34位 36位

<評価と課題・改善>

平成28年度第58回栃木県郡市町対抗駅伝競走大会では、参加30チーム中29位となり、念願の最下位脱出を達成しました。

壬生町単独チームのため選手の層を厚くすることは簡単にはいきませんが、中学校や体育協会だけではなく企業等とも連携を図り、選手強化に努めていく必要があります。

また、町の広報紙やホームページ等で駅伝大会や練習会をPRし、町全体としての盛り上がりを図るとともに、選手の発掘をする必要があります。

<今後の方向性>

現在抱える問題として、高校生選手が少ない為1人走れないとチームが成り立たなくなる状態です。そこで、栃木県小学生駅伝競走大会から栃木県郡市町駅伝競走大会に繋がるよう、小学生選手の発掘・育成をしていく必要があります。その選手の中から中学校、高校、大学、一般まで続けていける競技力を身につけるための練習会を実施し、個々のレベルアップを図ります。これらの課程の中で、駅伝チームの若返り、将来のアスリート候補育成を目指します。

③スポーツ振興助成事業（2,219,000円）

<事業概要及び実施状況>

スポーツ活動を振興し、町民の健康の増進などを図るとともに、指導体制の確立に活躍している壬生町体育協会(各専門部及び壬生町スポーツ少年団)に補助金を交付し、各種競技スポーツ団体の大会開催や教室等の活動支援を行っています。

また、スポーツ全国大会等出場者(個人・団体)に激励金を交付し、その成果を称えるとともに、総合運動場体育館内に国体出場者名簿一覧の掲示や、体育協会において全国大会等の出場者を表彰するなど、広く町民にスポーツの意識の高揚を図り、本町のスポーツの振興に寄与することができました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成 27 年度	平成 28 年度
スポーツ団体の大会開催数	体協専門部主催の大会	回	43	44
全国大会等出場者数	激励金交付者数	人	102	126
スポーツ少年団指導者登録数	スポーツリーダー登録数	人	43	43

<評価と課題・改善>

体育協会の活動を支援し、町民スポーツ意識の高揚を図るとともに、競技スポーツの質の向上、スポーツ参加の促進、指導体制の確立を図るため補助金を交付することにより、各種競技団体が活動し多くのスポーツ愛好者が参加されております。

スポーツ少年団指導者につきましては、(公財)日本体育協会公認スポーツ指導者制度に基づき、地域住民のスポーツの促進を目的として、スポーツ少年団の育成・指導にあたる「スポーツリーダー」を養成しており、スポーツ少年団の健全な育成に寄与しております。

<今後の方向性>

栃木県の国民体育大会が 2022 年に開催されますので、体育協会との連携を更に強化し、競技スポーツの推進を図ります。

スポーツ少年団の健全な育成を図るため、指導者の育成を推進します。

<評価委員の意見>

子供達個々の体力に見合った指導を継続していただきたい。
 ゆうがおマラソン大会についてだが、選手としてだけでなくボランティア等様々な形で大会に参加し町民が一体となって盛り上げていけるよう今後も継続してもらいたい。
 駅伝についてだが順位が全てではないし完走することが重要であり、また、メディア等にも取り上げられ町の宣伝にも繋がるので、今後も欠場することなく頑張ってもらいたい。

5. 家庭と地域の絆を育むまちづくり

基本方針

●家庭教育を支援するあらゆる機会をとらえた「子育て・親育ち講座」の開催やスマートフォン等の携帯情報端末を介した有害情報から子どもたちを守る取り組みを行います。

●学校・家庭・地域が一体となって心温かな子どもを育むことを目指し、子どもを中心に幅広い年代層が触れ合える交流活動や体験活動、学習活動を推進します。

(1)家庭教育の推進

子育ては、親が親としての責務を十分に自覚し、優しさ、暖かさ、厳しさを持って子育てを担っていくことが必要です。

幼少期や思春期などの子どもの発達段階についての理解や親としての関わり方を学ぶため、様々な機会を活用した講座を開催し、家庭教育力を充実させていきます。

①子育て・親育ち講座開催事業(666,944円)

<事業概要及び実施状況>

家庭の教育力の低下や子育ての密室化等が指摘されている今日、保護者が子育てに必要な素養を学んだり、保護者どうしがゆるやかにつながりあったりすることを目的とした「子育て・親育ち講座」を開催しました。実施の方向性は、庁内関係部課局職員や地域住民等で構成する家庭教育支援実行委員会において協議し、講座の企画運営は、家庭教育支援チームが担いました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
小中学校子育て・親育ち講座の参加率	対象保護者数に対する参加した保護者の割合	%	72.7	68.1
子育て・親育ち講座の開催数		回	45	41

<評価と課題・改善>

仕事等を抱えて多忙な生活を送っている保護者に対しても学習機会が提供できるよう、保育園・幼稚園、小・中学校、各地域団体等と協働し、様々な機会を利用して全講座を開催しました。保護者のニーズに沿った講座の企画立案を特に重視しました。

また、平成28年度は、こども未来課との協働による講座を11講座開催し、271名の参加がありました。

中学生向けの講座として、「未来の親となる中学生を対象とした講座」は2講座で、37名の中学生の参加がありました。

今後も、母親、父親、中学生および青少年向けと多様な講座の開催を推進します。

<今後の方向性>

講話型とワークショップ型を併用しながら、保護者がその教育力を高めていけるような講座になるように、家庭教育支援チーム員とともに講座の内容を検討して参ります。

<評価委員の意見>

引き続き、適正に事業の実施に努めていただきたい。

(2)青少年教育の推進

青少年が健やかに育っていく過程では、社会性は人々との関わりの中から、意欲は物事に能動的・積極的に取り組む中から培われており、それらを育むためには、様々な体験活動を提供することが必要です。

そのため、各種団体の活動を支援し、青少年の体験学習や交流事業を推進していきます。

①青少年活動推進事業(475,215円)

<事業概要及び実施状況>

青少年が薬物や有害サイトの危険から自身を守り、犯罪の未然防止と更生の援助を啓発する標語を町内の中学2年生から募集し、いろいろな場面での啓発に活用しました。

少年犯罪等を未然に防止するため、PTAや町内関係団体で構成する青少年健全育成実施委員会が定期的な街頭指導パトロール、有害図書自販機撤去運動等を行っています。

また、社会の構成員としての責任を自覚してもらうために成人式を開催しました

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
成人式の出席者	成人式の出席者数	人	256	252
成人式の出席率	成人式出席者数/成人者数	%	69.0	66.7

<評価と課題・改善>

成人式は、新成人が企画・運営にあたっており、中学生ボランティアが受付等に協力して式典を開催しております。

また、町内の中学2年生より青少年健全育成標語を募集し、優秀な作品を選出して、バンドフェスタで表彰式を行い、各種イベント等の会場で啓発活動を行いました。

<今後の方向性>

今後も、成人式は、新成人の自主的な企画・運営で行っていきます。

また、青少年を健全に育成するため、環境浄化や啓発活動を推進して参ります。

<評価委員の意見>

啓発標語を生徒から募る際、生徒達にテーマの内容を理解してもらうべきである。ポスターや標語の作成を課題として与える際、児童、生徒に対しテーマを提示するだけでなく十分な説明をした方が、理解も深まり相乗効果としてより良い作品にもなる。

(3)地域と連携した教育の推進

①学校地域支援ボランティア推進事業(572,158円)

<事業概要及び実施状況>

本事業は、「学校の教育活動」における支援を目的とした「学校支援ボランティア推進事業」と、「地域社会での活動」における支援を目的とした「地域支援ボランティア推進事業」で構成されています。

「学校支援ボランティア推進事業」は、伝統芸能指導や読み聞かせ等の活動をする「ゲストティーチャー活動」、授業補助や校外学習の引率等の活動をする「学習アシスタント活動」、植木の剪定や校舎内修繕等の活動をする「施設メンテナー活動」、スクールガードなどの活動をする「環境サポーター活動」があり、ボランティアの活動に伴うケガ等を補償するためにボランティア保険に加入しています。

「地域支援ボランティア推進事業」は、土曜日の小学校体育館を会場に地域住民と子どもたちが一緒に活動する「子ども遊び学び塾」、中学生に勉強を教えたい地域住民と勉強を教えてもらいたい中学生とのつながりの場を創出する「放課後学習サポート活動」があります。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
学校地域支援ボランティア登録者数	各小中学校及び生涯学習課への登録延べ人数	人	508	471

<評価と課題・改善>

学校支援ボランティア推進事業では、平成28年度も多くの地域住民が本事業に関わり、地域の教育力を学校教育活動の中に生かすことができました。

また、「スクールガード」については、今市事件から月日が経過し、見守りの重要性が薄れ、平成28年度のスクールガードの登録人数は、最も多かった平成18年度の404名から半数以下の179名に減少しました。事業の普及、啓発のために、行政協力員（自治会長）の会議及び県シルバー大卒生対象の地域活動学習会において、学校地域支援ボランティア推進事業の説明を実施し、本事業の啓発に努めています。「放課後学習サポート事業」において、参加した生徒とその保護者を対象に実施したアンケート調査の結果、家庭環境に何らかの問題を抱えた生徒が参加している実態や、そういった生徒にとっては本事業が貴重な学習の時間となっていることなどが明らかになっています。

<今後の方向性>

地域支援ボランティア推進事業では、子どもたちを地域全体で育もうとする気運をより一層高めていくように事業の周知に努めていきます。

<評価委員の意見>

スクールガードについてだが、小学校で開催された安全会議に2年以上出席し危険箇所等色々意見を言ってきたが何の変化も改善もされなかった。
学校と関係機関で調整を図るなど効果的な運営をお願いしたい。

6. 国際性を高め交流活動が盛んなまちづくり

基本方針

●異国文化への理解を深める活動を推進し、本町に居住する外国人のニーズに応じて情報提供します。

●これからのグローバル社会を生きる子どもたちのため、国際理解教育を充実します。

(1)国際理解の促進

①外国語指導助手配置事業(10,168,578円)

<事業概要及び実施状況>

平成23年度から民間委託の外国語指導助手（ALT）を3名配置し、ALTを各中学校に週3日、壬生小学校には週2日、その外の各小学校には週1日派遣し、それぞれの学年に応じた国際理解教育や英語学習の充実を図っています。

小学校では、小学校学習指導要領の改訂により平成23年度から義務化された「外国語活動」や国際理解に関する学習において、英語を用いて、互いの思いや考えを伝え合うことの楽しさや大切さを体験できるような活動をとおして、コミュニケーション能力の素地を養い、中学校では、英語科の授業において、実践的なコミュニケーション能力の基礎を養う等、外国語教育の促進を図ります。

また、ALTを活用したイングリッシュ・プログラムを年2回実施し、小学校4年生から6年生を対象に希望者を募り、「まる1日英語で過ごそう」事業として、アクティビティな体験として、ALTと1日ゲーム等の活動をしながら、英語によるコミュニケーション能力の素地の向上を図っています。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
ALTの児童生徒1人あたりの事業費	総事業費/児童生徒人数	円	3,228	3,177
イングリッシュ・プログラム	参加人数	人	77	83

<評価と課題・改善>

外国人による生きた英語による授業により、児童・生徒の学習の意欲が高まるなど外国の文化などへの興味・関心を深めることができました。

ALTを学校に計画的に配置することで、小学校低学年のうちから英語に触れ合いコミュニケーション能力向上に繋げ、児童生徒が異文化に触れる経験をとおして、豊かな英語力を身に付けられる異文化体験を積むことができました。

ALTとの事前打合せ時間を確保し、教員が授業の中でよりALTを効果的に活用したTT授業を見出していくことが重要です。

<今後の方向性>

中学校では、話せる英語力・入試に強い英語力を身に付けるため、新たなALTの活用として、給食中にALTによる簡単な英語放送を聞かせ、どんな意味かを予想させたり、英語の歌をながし意味を話し合うなど、ネイティブな英語に触れる機会を増やします。ネイティブな英語に触れることでリスニング力を向上させ、英語への興味・関心を高めていきます。

また、イングリッシュ・プログラム事業についても、活動をとおして英語を用いた楽しさを実感できるように工夫し、あきない事業を展開していきます。

＜評価委員の意見＞

外国語専門の教師をもっと増やすように要望してほしい。
色々な工夫を取り入れて、継続して事業を推進していただきたい。

(2)国際交流活動の推進

①中学生国際交流推進事業(8,570,372円)

＜事業概要及び実施状況＞

本事業は、平成10年度から実施しており、平成28年度は19回目です。壬生町中学生海外派遣団として8月13日から8月21日の9日間、町内在住の中学校第2学年生徒20名をオーストラリア・シドニーに派遣しました。ホームステイによる家庭での生活や現地中高生との交流、語学学校での研修を行いました。

＜事業実績＞

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成27年度	平成28年度
参加者1人あたり事業費	総事業費/派遣団員数	円	481,970	479,729

＜評価と課題＞

ホームステイしながら、公共交通機関を利用して語学学校に通学したり、現地中高生との交流事業に参加し、日本文化と昔からの遊び等を通して日本の文化や良さを十分に交流を通して伝えることができました。

また、外国の風土・文化・人々との異文化体験学習から学ぼうとする意欲や実践力、語学力の向上と国際性豊かな感覚を身に付ける事ができました。

中学2年生の代表として参加した団員たちは、ホームステイを経験することで、いろいろな人々と意思の疎通をはかりながら直接外国の異文化に触れる貴重な体験になったので、この貴重な体験を沢山の人たちに伝えていくことが課題です。

＜今後の方向性＞

ホームステイを経験することで、直接外国の異文化に触れる貴重な体験ができるので、今後も継続して実施していきます。

＜評価委員の意見＞

小学校でも事業のアピールをすることにより子供達が夢を持つことは重要であるし、新たな目標設定の一つにも繋がっていくのではないかと。また、参加人数に限りはあると思うが、参加しようとか向かっていく人数が増えることにより学力も上がり理解も深まり、町の素晴らしさにも繋がっていくと思うので頑張ってください。